

# 三重県における森林所有者を対象とした 林業に対する意識調査

## Survey of private forest owners for forest management in Mie prefecture

板谷明美<sup>1)</sup> 石川知明<sup>1)</sup>  
Akemi Itaya<sup>1)</sup> Tomoaki Ishikawa<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

わが国では長期的に国産材需要や木材価格が低迷し、その結果として森林所有者の施業意欲が低下し、適切な間伐が実施されないなどの状況が一部にみられる他、林業就業者の減少・高齢化が進むなど林業を取り巻く状況は大変厳しい（日本林業協会，2008）。

三重県は、県土の65%を森林が占め、さらにスギとヒノキを中心とする人工林が62%と全国平均（平成13年度末）の46%を大きく上回っている（三重県，2008，2009）。地域別では、三重県南部地域の森林率は特に高く、例えば尾鷲熊野地域では森林率86%、人工林率69%である（三重県，2008）。三重県において、特に南部地域において森林は有用な資源であり、またその利活用は地域振興において重要な役割を果たすと考えられる。

そこで、本研究では、森林管理の主体となる森林所有者に対する有効な支援について検討するために、森林所有者を対象とした林業に対する意識調査を行った。

### 2. 材料と方法

三重県内の森林所有者を対象として、所有する森林に対する森林管理の実態についてア

ンケートを行った。アンケートは森林組合を通して森林所有者に30通配布した。

### 3. 結果と考察

#### （1）回答者のプロフィール

配布したアンケートの内、21名（内1名は女性）の森林所有者から回答を得た。回答者のプロフィールは40代が最も多く42.9%を占め、職業別では会社員が最も多く47.6%を占めた（図-1，2）。また、5ha未満の小規模所有者が3割を占めた（図-3）。

#### （2）森林管理状況について

自分が所有している森林に「ここ1～2年以内のうちに行った」と回答した割合は76.2%であった。一方、一度も行ったことがないという森林所有者も1名いた（図-4）。

「ここ1～2年以内に行った」と回答した人は、その目的として「山林の状況（森林の生育状況、災害発生の有無等）を見るため」、「境界などを確認するため」と回答した人が65.6%を占め、実際に森林作業のために行った人の割合は少なかった（図-5）。

自分が所有している森林に「しばらく行っていない」、「一度も行ったことがない」と回答

1) 三重大学大学院生物資源学研究所 Graduate School of Bioresources, Mie University

した人は、その理由として「時間に余裕がないため」、「一人で行くのが困難あるいは不安だから」と回答した割合が高かった(図-6)。

### (3) 森林整備状況について

所有している森林の現状について、「ある程度手入れされている」と回答した人が約60%いる一方で、「あまり手入れされていない」と回答した人が約30%いた(図-7)。

### (4) 森林整備の課題について

所有している森林を守り育てるための課題は、「木材価格の低迷」(42.9%)、「保育経費」(26.2%)と考えている人の割合が多かった(図-8)。

### (5) 今後の森林整備の方向について

今後の森林整備の方向について、「支援があれば手入れを行いたい」、「積極的に手入れを行いたい」と答えた人が9割いた一方で、「皆伐して雑木林にしたい」という回答もあった(図-9)。

### (6) 森林整備に必要な支援について

森林整備に必要な支援は、「森林の手入れや再造林などへの資金」40.5%、「林道、作業道、歩道などの整備」21.4%という回答が多くを占め、既存の支援に対する強化を希望する回答が多い結果となった(図-10)。

### (7) 森林の多面的な機能に対する認識について

回答割合が一番多かったのは、「豊かでおいしい水を供給したり、川や海の生き物を育む働き」27.0%、ついで「木材を生産する働き」22.2%、「洪水や土砂崩れなどの災害を防止する働き」19.0%、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」14.3%であった(図-11)。

### (8) 三重の森林を守り育てるための具体的手段について

「人工林に対する間伐等の手入れ」25.4%や「放置されている伐採跡地に対する植林」20.6%など、森林作業の推進が三重の森林を守り育てるために必要であるとする回答が多くあった(図-12)。

## 4. まとめ

森林所有者に対するアンケートの結果から、木材価格の低迷が森林管理において大きな課題となっていることがわかった。多くの所有者が、所有している森林の整備についてその必要性を十分に理解しており、また今後も整備を行いたいと考えているが、木材価格の低迷などが不安材料となっていることがわかった。「皆伐して雑木林にしたい」(30代、男性、会社員)と回答した人もおり、長期にわたって安心して森林管理を所有者が行えるような支援システムが必要ではないかと考えられた。

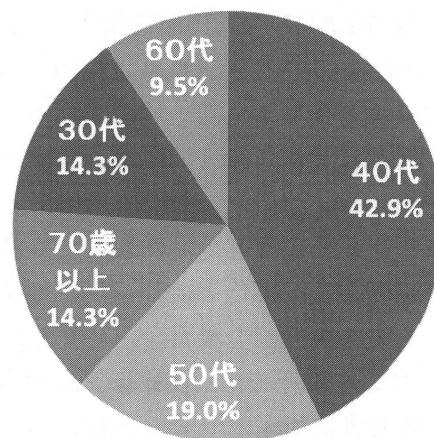
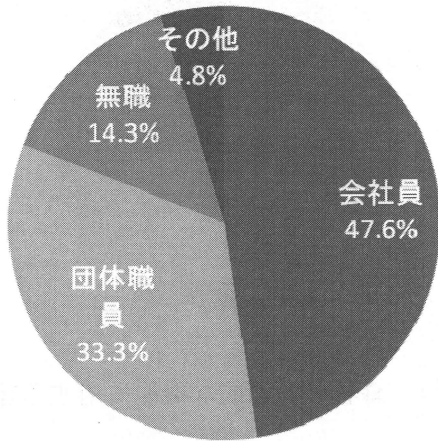
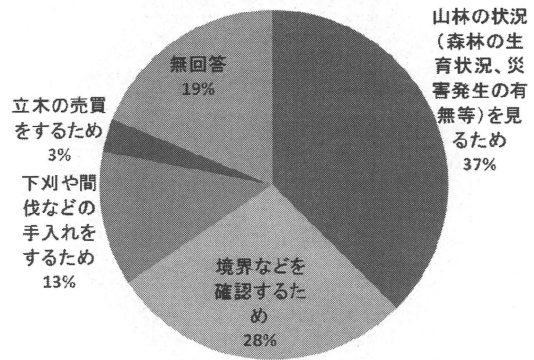


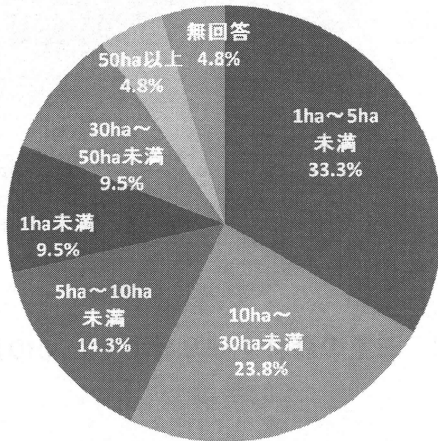
図-1 回答者の年齢



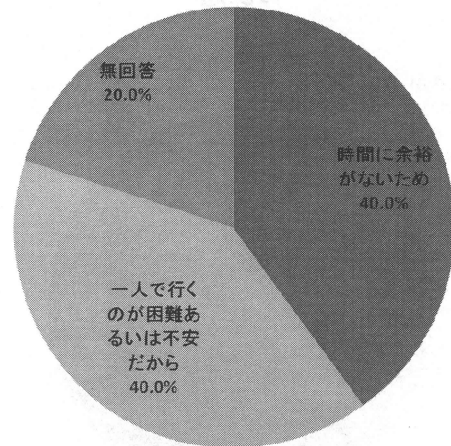
図—2 回答者の職業



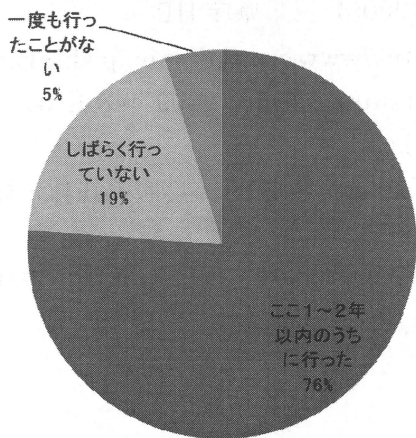
図—5 所有森林へ行った理由



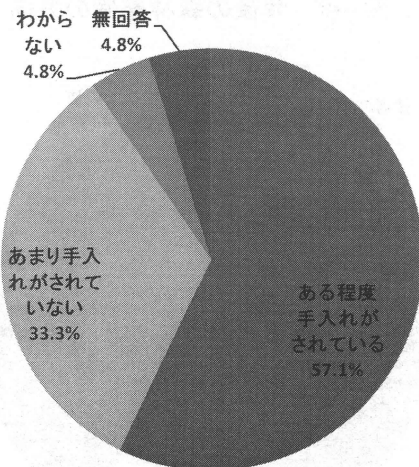
図—3 回答者の所有森林面積



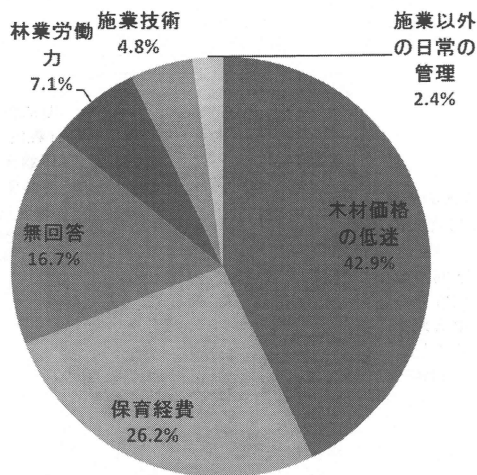
図—6 所有森林へ行かない理由



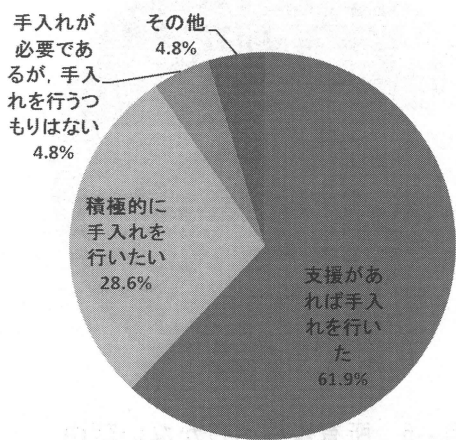
図—4 所有森林へ行った回数



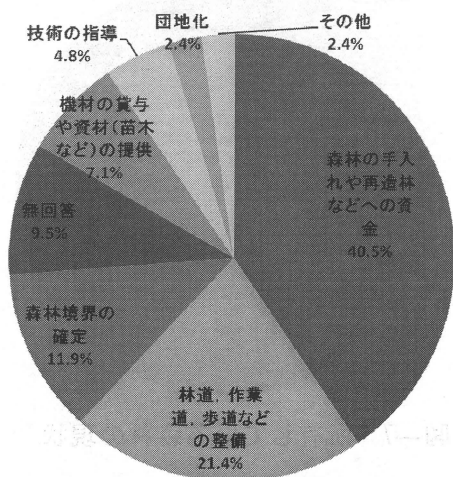
図—7 所有している森林の現状



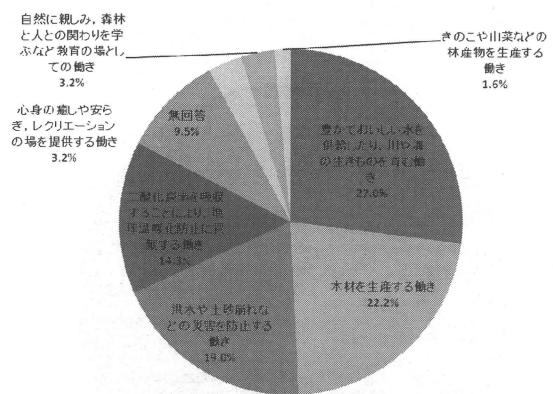
図—8 所有している森林を守り育てるための課題



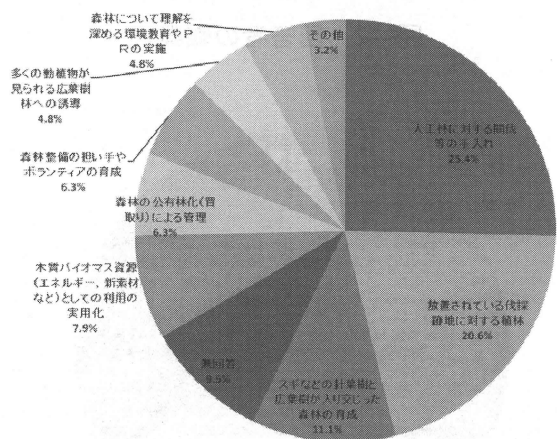
図—9 今後の森林整備の方向



図—10 森林整備に必要な支援



図—11 森林の多面的な機能に対する認識



図—12 三重の森林を守り育てるための具体的な手段

引用文献

三重県 (2009) 三重県庁 HP

<http://www.eco.pref.mie.jp/shinrin/01/01shinrin.htm> (2009年3月31日参照)

三重県 (2008) 平成19年度版 森林・林業統計書, 三重県.

日本林業協会 (2008) 平成20年版 森林・林業白書, 日本林業協会.